

竜爪山穂積神社北方の糸魚川：
静岡線の露頭（地学散歩(15)）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-08-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小川, 賢之輔 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025638

竜爪山穂積神社北方の糸魚川—静岡線の露頭

地学散歩(15)

小川 賢之輔*

興津川をさかのぼると、小島—但沼—高瀬—和田島をへて黒川に達する。これより支流の黒川に沿って、黒川林道(東海自然歩道)を西方に5.75km進むと、炭焼7号橋に達する。これより黒川林道と分れ造成中の竜爪山(穂積神社)登山道を進むと、糸—静岡線の良好な露頭に達する。

糸—静岡線は、この付近では、竜爪山脈の線の東側を南北に走っており、露頭は炭焼7号橋から北方750mのヘアピンカーブ(標高500m)を曲って、南へ数10mのA地点(低角度;旧期)と、更に約300m南のB地点(高角度;新时期)の2ヶ所に存在する。またこの断層は、地形の上によく現れている。

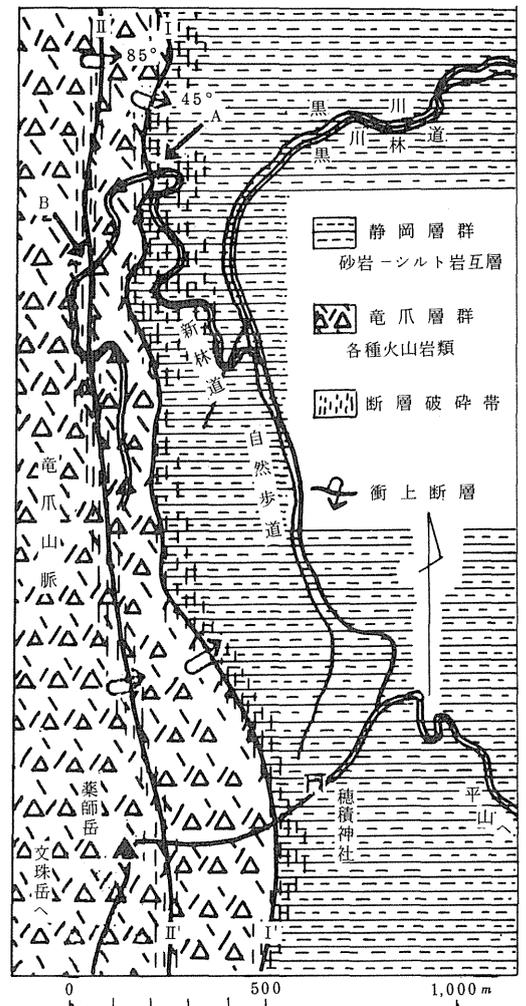
付近の地質の概略は、糸—静岡線I—I'の東側には、富士川谷第三系の静岡層群(中期中新世)の砂岩・シルト岩の互層(砂岩がち)が南北に分布し、所により厚い砂岩層を挟んでいる。また糸—静岡線I—I'の西側には、富士川谷第三系の最下部に相当する竜爪層群(旧期中新世)の粗面玄武岩・粗面安山岩・粗面岩などのアルカリ質溶岩と火砕岩、および流紋岩の溶岩と火砕岩が、安倍川東岸(左岸)を南北に走る十枚山構造線との間に、南北に狭長に分布している。糸—静岡線II-II'は、糸—静岡線I—I'の西方、ほぼ100m付近の竜爪層群中を、南北に平行して走っている。(付図参照)

A地点に露出する糸—静岡線I—I'は、地層界線をなす主断層の衝上断層で、走向5°E・傾斜45°Wであり、静岡層群の砂岩・シルト岩層が、幅数10mにわたって著しく破碎されていて、断層面に接して幅約40cmの緑色断層粘土帯、続いて幅約67cmの黒色断層粘土帯、更に砂岩・シルト岩の互層の印象を残す砂砕帯が引き続いている。また地表のはい下りによって、地表に近い断層面が垂れ下がっている。また断層に接する竜爪層群は、暗緑黒色(風化面は白っぽい)の粗面玄武岩質の火砕岩である。(付図参照)

B地点に露出する糸—静岡線II-II'は、竜爪層群中を、糸—静岡線I—I'に平行して走る副断層の衝上断層で、走向10°E・傾斜85°Wであり、竜爪層群の暗緑黒色粗面玄武岩質火砕岩や粗面岩溶岩などが、幅37mにわたって破碎されている。(付図参照)

付近には、E—W性の断層も数多く存在して、糸—静岡線を分断している。

土 隆一・他(1974) 静岡県の地質(20万分の1静岡県地質図説明書), 静岡県。45-57。
静岡県地学会編(1976) 東海自然歩道の地学案内。68-82。



竜爪山北城地質略図(静岡市北東)

* 富士市



A地点：旧期糸静線



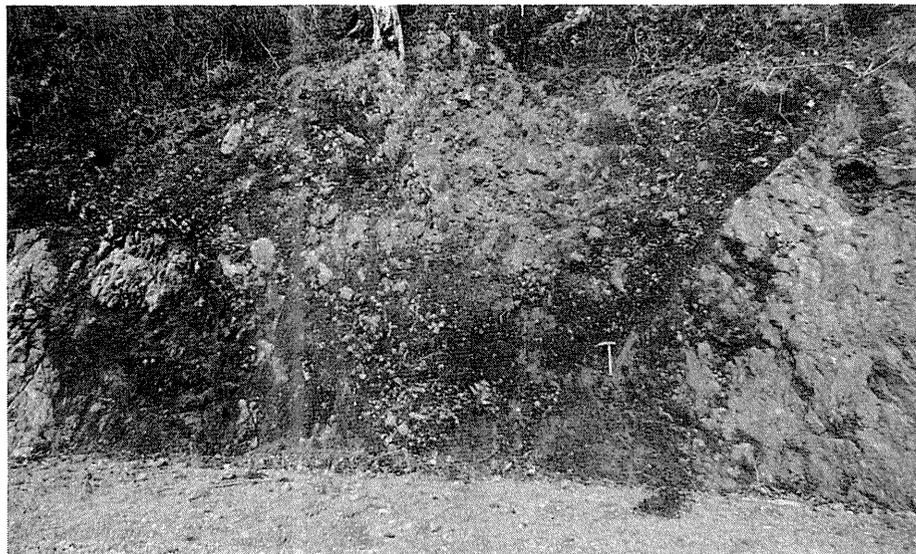
上図部分図



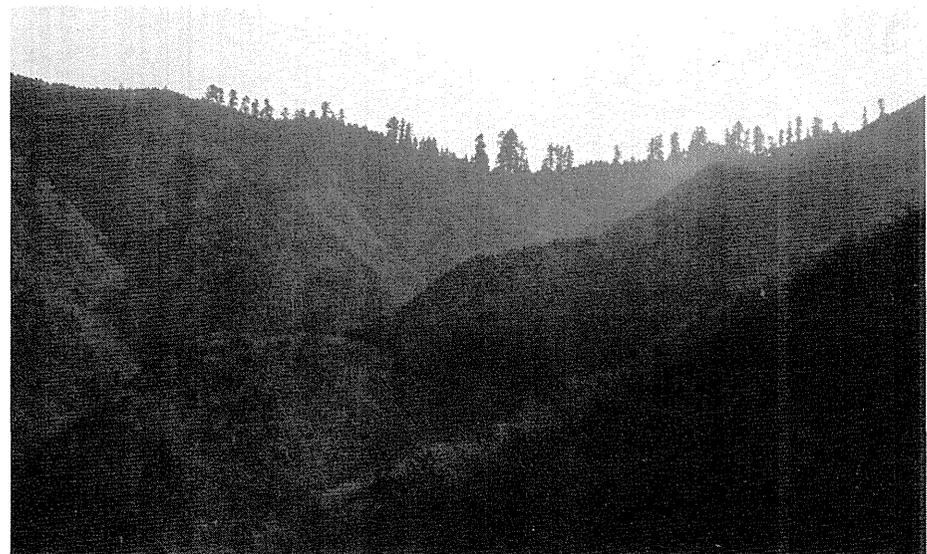
B地点：新期糸一静線（断層線より左：破碎帯）



B地点：新期糸一静線（破碎帯の一部）



B地点：新期糸一静線（上図の部分）



A地点より見た穂積神社 線付近の断層地形